



日赤ふくおか

No.
72

平成29年9月25日発行

日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

発行所

日本赤十字社福岡県支部

〒815-8503

福岡市南区大楠3-1-1

TEL:092-523-1171

<http://www.fukuoka.jrc.or.jp/>

CONTENTS

- 2 「平成29年7月九州北部豪雨」福岡県支部の活動報告と被災者の声
- 4 赤十字インフォメーション
- 5 We Are ボランティア、青少年赤十字活動紹介コーナー
- 6 講習申込のご案内

人道



それは、人の痛みに寄り添うということ――

赤十字活動資金にご協力をお願いします



092-523-1171

お電話で



ホームページ

日本赤十字社 福岡県支部

検索

パソコンから

平成29年7月

福岡県支部の活動



平成29年7月5日 15時38分、朝倉市では1時間当たり129.5ミリの大雨を観測、17時51分には、九州初となる大雨特別警報が発表され、その後も断続的に降り続いた雨により九州北部地方に甚大な被害が出ました。

福岡県支部では、発災直後から福岡県および朝倉市災害対策本部へ連絡調整員を派遣し被害状況や避難者などの情報収集をはじめ、7月6日の午後には医療救護班を派遣し、避難所の巡回診療や医療ニーズの調査を実施しました。その後も、毛布などの救援物資の送達や、看護師による健康相談やこころのケア、ボランティ

2. こころのケア調査



看護師らが朝倉市内の避難所を回り、避難者から直接お話を伺いながら、こころのケアのニーズ調査を実施しました。

聞き取り結果は、他の関連機関と情報共有し、その後の支援のあり方に活用しました。

4. 救援物資

発災後ただちに、毛布や安眠セット、タオルセットなどの救援物資を朝倉市や東峰村などの避難所にお届けしました。



救援物資の配分状況

毛布(枚)	安眠セット(組)	タオルケット(枚)	タオルセット(枚)	送付先
1,550	1,055	100	10	朝倉市、大刀洗町、東峰村、福岡市

※タオルケットは、福岡市営住宅への避難者入居(仮設住宅)に伴う準備用として

5. ボランティア

日本赤十字社福岡県支部防災ボランティア会及び赤十字地域奉仕団が避難所である朝倉市立杷木中学校にて、具だくさんの豚汁約150食を提供しました。また、福岡県いやしのケア赤十字奉仕団「なごみ」によるハンドケアなどの「リラクゼーション」を実施しました。

九州北部豪雨

報告と被災者の声

アによる炊き出しや、いやしのケアなど8月17日まで幅広い支援を実施しました。

これらの人道支援活動は、皆様からの赤十字活動資金により実施することができます。

日頃からご支援いただき皆様に深く感謝申し上げ、ここに活動のご報告をさせていただくとともに、活動中に伺った被災地での生の声をお伝えすることで、人道とは？そして人の痛みに寄り添うとは？について考える機会になれば幸いです。

1. 医療救護

7月6日、7日、被災地の医療ニーズの調査や診療のため、嘉麻赤十字病院から東峰村小石原地区へ、また福岡赤十字病院から東峰村宝珠山地区へ医療救護班を派遣し活動にあたりました。

救護班派遣数（人）

班数(班)	医師	看護師	主事	薬剤師	計	取扱者数
2	2	6	5	1	14	18

3. 健康支援およびこころのケア

健康に関する悩みや不安、避難所での慣れない集団生活など、避難者の痛みに寄り添うため、また、要望のあった夜間でも対応できるよう、朝倉市総合市民センター（通称：ピーポート甘木）、朝倉地域生涯学習センター、朝倉市立杷木中学校に看護師を派遣しました。

活動報告



避難所夜間健康支援及びこころのケア要員の派遣状況（人）

看護師	主事	計	取扱者数
100	25	125	1,152



ボランティア等の派遣状況（人）

防災ボランティア会	赤十字地域奉仕団	いやしのケア奉仕団	福岡県支部	計
8	11	2	4	25

被災者の声

① 東峰村のいづみ館にて

「車に乗っていた時、川が氾濫して車が半分まで水につかりました。警察が助けに来てくれて、車を置いて避難所へ来ました。自宅までの道路が寸断されていて自宅に帰れません。こんな経験は初めてです。眠れません。早く自宅に帰りたい。」（7/6・男性）

② 朝倉市の朝倉地域生涯学習センターにて

（自宅が写った航空写真を見せながら）「朝倉市内で16年間、妻と二人で蕎麦屋を営んできました。今回の豪雨で自宅の裏山が崩れ、救助隊の助けを借りて、濁流の中、ロープをつたって渡ってきました。大きな怪我はありませんが、心の中は不安や心配でいっぱいです。」（7/14・男性）

③ 朝倉市の朝倉地域生涯学習センターにて

「自宅の一階が浸水、私も腰まで水につかりました。主人は杷木から家へ帰る途中で、あと10分遅ければ濁流にのまれていたかも。畑も泥をかぶり、土作りから始めないといけません。できれば朝倉に住みたいけど、ここを離れることも考えないといけないとも思います。」（7/20・女性）

④ 朝倉市立杷木中学校体育館にて

（炊き出しの豚汁を召し上がりながら）「豚汁おいしいですね。避難所ではお弁当がありますが、豚汁のような手作りの温かいものはとても嬉しいです。そして、何よりも僕たちのことをこうして思ってくれている…その気持ちが嬉しいです。」（7/21・男性）

①



②



③



④



※内容は取材当時のものです

赤十字インフォメーション

information

災害で救えるいのちを増やすために ～赤十字防災セミナー～

「救急の日」にあたる9月9日、福岡県支部にて福岡市南区の大楠校区自主防災会主催による災害時生活支援講習が開催され44人が受講しました。

受講者たちは、「災害で自分のいのちを守るには？～備えと知識～」と題した講義や、赤十字移動式かまどを使った炊き出し、タオルケットを使った防寒用ガウン、また、少量のお湯でできるホットタオル作り、救護倉庫の見学などを体験しました。

受講者からは、「今年7月に九州北部豪雨があり、自然災害は他人事ではないと強く感じ、講習を受講したが、まずは自分でできる備えをしようと思った」「自分自身の備えはもちろんのこと、いざという時は隣近所で声をかけあって協力する気持ちを忘れないようにしたい」といった感想が聞かれました。



ハイゼックスという特殊な袋を
使った炊き出し体験



災害時の備えに関する講義

赤十字
防災セミナーの
一部を
ご紹介！

「災害エスノグラフィー」、 「災害図上訓練(DIG)」ってなーに？



災害エスノグラフィー



大規模災害の被災者の経験談を通じて、過去の災害の追体験することで、被災の具体的なイメージを理解する。

東日本大震災などの大規模災害では、自衛隊や消防などの公的機関の支援で救える命には限りがあり、発災初期に重要な役割を果たしたのは、自分自身や家族、地域コミュニティなどによる支援、いわゆる「自助」「共助」の力でした。

日本赤十字社では、「自助」「共助」の力を高めるために、平成29年度から「赤十字防災セミナー」を開催し、災害発生時の応急対応にあたるリーダー層の育成を推進しています。

防災セミナーでは、受講者に被災のより具体的なイメージを構築していただくため、「災害エスノグラフィー」や「災害図上訓練(DIG)」を実施しています。

災害図上訓練 (DIG)



自らが居住する地域での、災害発生の危険性や防災上の資源を把握・理解し、それを地図上に明記して、個人や地域単位であらかじめ行うべきことをグループワークで検討する。



行事開催の お知らせ

福岡県日赤紹綴会第58回総会を開催

日時：平成29年11月15日(水) 10時30分～

会場：ヒルトン福岡シーホーク(福岡県福岡市中央区地行浜2-2-3)

We Are
ボランティア



被災地へエールを!

熱々をどうぞ♪



7月21日、今回の豪雨災害で避難所となっている朝倉市立杷木中学校体育館で、「日本赤十字社福岡県支部防災ボランティア会」と「朝倉市赤十字奉仕団」のボランティア約20人が豚汁約150食分の炊き出しを行いました。慣れない避難所で生活されている方々のために、大根、にんじん、こんにゃく、里芋、ごぼう、ねぎ、白菜、豚肉と具だくさんで作りました。

参加した奉仕団員は、「みんなの思いをひとつに、心を込めて作りました。この豚汁の秘訣は、

灰汁をとらないこと! 豚汁の濃さも、途中で味見をするよりも、召し上がっていただく時に少し煮詰まるよう加減しています」と笑顔で語ります。

外で豚汁を調理している間、体育館内では、「福岡県いやしのケア赤十字奉仕団なごみ」の皆様がハンドケアやショルダーケアなどを行いました。

手で温めたオイルで優しく腕や手のひらをさすると、避難者の方は気持ちよさそうに目を閉じたり、今回の災害で大変だった出来事などをお話ししたりしていました。

少しでもお疲れが
これますように…



青少年赤十字活動紹介コーナー



「福岡県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」開催



8月1日から3日の2泊3日、国立夜須高原青少年自然の家において「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」(通称:トレセン)を開催しました。今年の参加者は、小学生(5・6年生)・中学生・高校生合わせて80名のメンバーと先生方や賛助奉仕団の方など53名、合わせて133名での開催となりました。

このトレセンは、赤十字の精神に基づく自主性と指導性、知識・技術などを集中して学習することで、「気づき」「考え」「実行する」態度を育て、学校や地域において、青少年赤十字リーダーとして活動する児童・生徒の育成を目指して開催しています。トレセン運営の特徴は、①指示のない生活、②注意深い生活、③自分の考えを持つ生活、④自分にチャレンジする生活、⑤他のために自分を活かす生活をモットーに、ボランタリー・サービスを基盤に生活することです。

開会式の時、表情の硬かった参加メンバーも活動を通して大きく変化していきました。参加メンバーからは、「仲間を信頼することの大切さを学んだ」、「どんな生活の中でも、自ら気づき・考え・実行することや協力すること、

コミュニケーションをとることが大切だと学んだ」、「どんな時でも相手の立場に立って、考えてから行動することが大切」、「時間に余裕をもって行動することの大切さを学んだ」等々、たくさんの感想が寄せられました。



知つて得する

赤十字講習会を受講しませんか？

救急法

「いのちの輪をつなぐために」



●救急法(基礎講習)

教材費:1,500円 受講条件:満15歳以上の方 定員:各日30人

開催日	時間	会場	受付期間
10/ 4 (水)	10:00~16:00	久留米赤十字会館	8/21(月)~ 9/22(金)
10/27(金)	10:00~16:00	立岩公民館(飯塚市)	9/11(月)~10/13(金)
11/ 1 (水)	13:00~18:00	福岡県支部	9/11(月)~10/13(金)
1/ 9 (火)	13:00~18:00	福岡県支部	11/20(月)~12/18(月)
2/ 7 (水)	10:00~16:00	コムシティ(八幡西区)	12/25(月)~ 1/26(金)

●救急法(救急員養成講習)

教材費:1,700円 受講条件:満15歳以上の方 定員:30人

開催日	時間	会場	受付期間
10/ 5 (木)・6 (金)	9:00~17:00	久留米赤十字会館	8/21(月)~ 9/22(金)
10/28(土)・29(日)		立岩公民館(飯塚市)	9/11(月)~10/13(金)
2/ 8 (木)・9 (金)		コムシティ(八幡西区)	12/25(月)~ 1/26(金)

幼児安全法

「万一の子どもの事故やけがに備えたい」



●幼児安全法(支援員養成講習)

教材費:1,800円 受講条件:満15歳以上 定員:20人

開催日	時間	会場
3/16(金)・17(土)	9:00~17:00	福岡県支部
受付期間		
1/15(月)~2/23(金)		



【お申し込み方法】

講習会のお申し込み方法は、以下の3通りです。

詳細は、福岡県支部ホームページ (<http://www.fukuoka.jrc.or.jp/>) をご確認ください。

①インターネットで ②はがきで ③FAXで



【お問い合わせ、お申し込み】

日本赤十字社福岡県支部 事業課 講習担当

〒815-8503

福岡市南区大楠3丁目1番1号

T E L : 092-523-1172

F A X : 092-521-2552

E -mail:koushuu@fukuoka.jrc.or.jp